

繪本豐臣勲功記

三編
八

遠13
2209
28



門遠13
辨 2209
卷 28

繪本豊臣勲功記三編八之卷

目錄

勝家極勇夜走六角義禎

馬君賜感帖

竹中重治合降糸坂主從

馬町野破殿



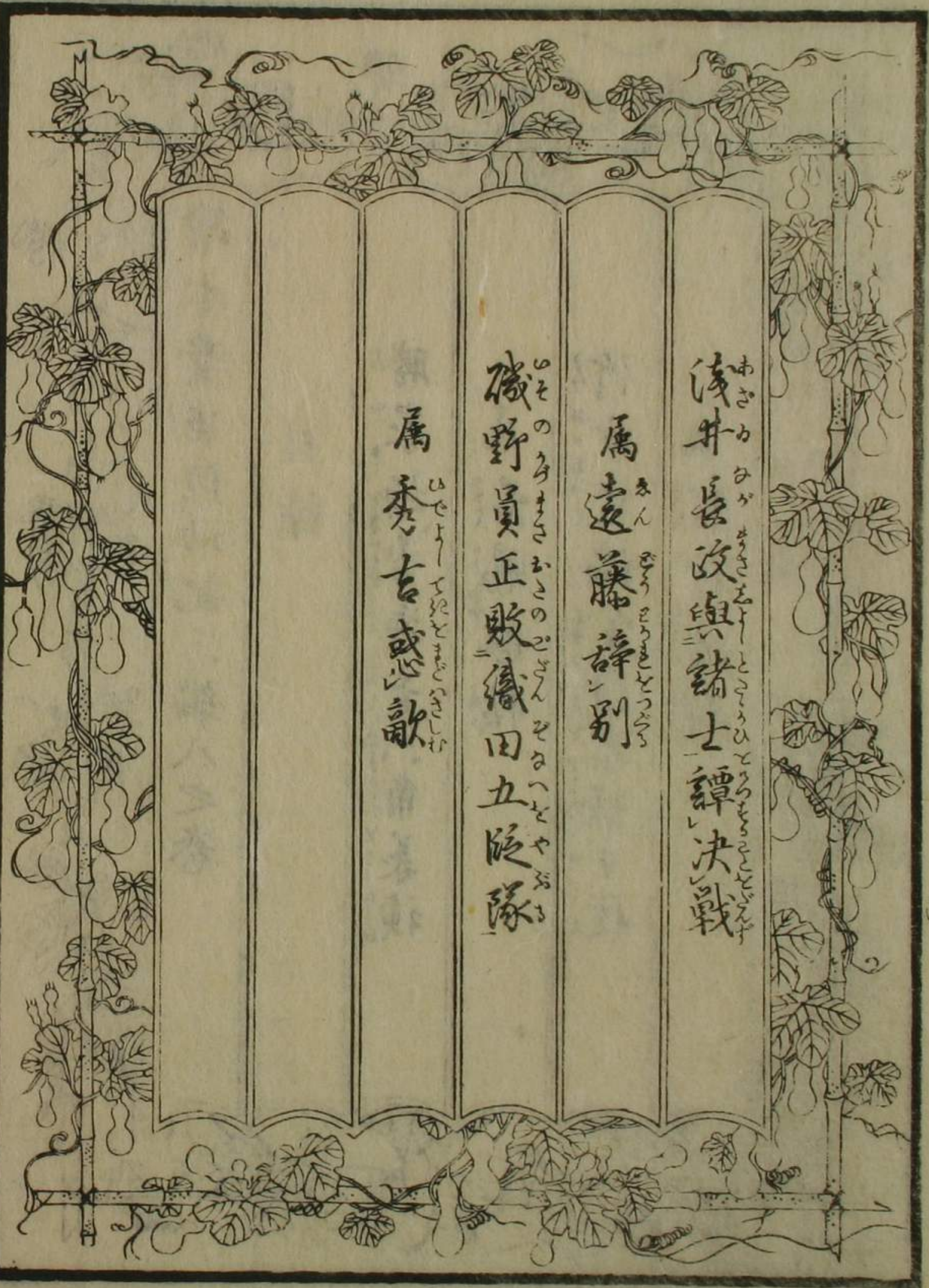
繪本豊臣勲功記三編八之卷

淺井長政與諸士譚決戰

屬遠藤辭別

磯野員正敗織田五郎隊

屬秀吉感歌



繪本豊臣勲功記三編卷之八

櫻澤堂山編輯

勝家極勇夜走六角兼復 屬君賜感帖

撤鼻斗升の水を求む 近周こそ小報る小西江の水を

湛へんといふ是成産れ歎うらん 願をみて難しとるさる

のほの強小藤吉斎秀吉あり 然かと小進を六角佐々木の

陣中おの今日柴田が謂つることと 誠ありと意納く當城の

層玄も遠うらほし 今ハ全く安穩ありととらから 許容るる

侮亡要心もせどく在さる小より 惣軍五千有余人獲はさらあり

單衣さへ被もせどく 熟睡せり下へ柴田權六斎正魁ふらえ

斬投バあま小継乃士軍ハ愈是一騎當千あり 五百有金



勢威をつらふ。ふりひりの意杖をうら振。四角八面小旗。口まは
 二。角方の軍勢ハさねがら群蟻の洪水小雁流さる心地
 してまじ目覚めぬ輩も有り。覺ても劇く途を失ひる。若
 武士の歌り自軍つん分もやらねと道す。まふ同士殿とること教
 紀を志柴田の勢ハ秘より。戦死と心を決しつる小ぞ怖る。氣
 力次第のまは千変萬化の播きまをふその降先の始ること勿
 馳向ふ事あり難く。こまがこめ小進の軍勢。五千有餘騎。五
 ながら。ま甲斐もわく崩落を。得たりや。應と猪家。自後南
 西小東小突破を。ること電光石火より。猶疾く。遂小進の
 強悩まこれ。備備小敗走を。兼頼入道大。小怒り。多寡の
 城を共小多く。は自軍の。計量。脆く。撃破らる。事やあふ。

細き色やつと。年々ま。こも。難く。一個止る。音のぬ風。と。逃。こ。も
 たり。之。雲。吉田。永原。田中。飯。大將の。た。右。小。引。副。七。馬の。首。は。立
 懸。を。そ。ま。と。つ。ん。より。柴田。猪家。あ。の。小。旗。少。く。勅。下。ハ。兼。頼。入
 道。と。か。が。へ。り。對。を。離。も。故。小。こ。そ。れ。宇。多。源。氏。の。嫡。流。を
 る。ぞ。柴田。の。副。魔。の。土。屋。小。せん。殿。提。ら。せ。や。ま。う。か。づ。れ。ど。と
 體。も。敢。ぬ。小。突。と。進。め。は。二。角。兼。頼。の。ま。じ。と。奔。鞭。う。つ。り。引。退
 く。柴田。ハ。あ。ま。を。漏。さ。と。と。驢。の。像。く。趁。菟。色。は。と。雲。新。た。第。一
 が。身。同。苗。之。帝。た。ま。只。單。務。擔。く。返。し。て。駿。率。を。列。し。し。新。を
 つ。若。く。は。自。軍。の。奉。止。を。江。源。氏。の。名。お。も。か。り。ま。を。逃。け。持
 憾。と。よ。返。せ。く。と。自。勢。を。指。揮。せ。し。橋。を。志。ご。ひ。く。馳。向。ハ。柴田
 を。是。と。恥。と。見。て。意。や。さ。し。や。吾。子。小。入。ら。ん。と。六。殊。猪。あり。織。田

の河内小鬼と争ふ。柴田權六將家あり。死して其妻赤
 黒の鬼は呵責小逢とぬ先小中ら鬼柴田ヲ太刀風を交て
 戦ふやと呼たりながら血を汚隙をを深成せし。大舌口より
 おげ殺て蕪る。之帛た傷つ得たりやと問トく太刀を抜合せ
 十合をうり戦ひし。柴田ハ関ふる大カあり。殊少の合會を
 現世の初とかりひ決して段太刀おまはる得の之雲と赤た
 赤一岡程で劈面と鼻莖うけて破割を此も堪へたを
 小馬より撲と落りて。柴田が老黨走傍かこしも起を首
 と搦る。勝家おかも猛威を振ひ。醉象の波小狂ふが如く怒
 獅の巖を裂く小似たり。これがこめ小六角燈。一騎も遮へて戦ふ
 軍多く。ちり風小散る木は葉武者秋多らねとも紅と年足小

深て敗走を之雲吉田依斷斬せり。踏止く争ふ機合り
 ら。鞆江の城小激ちし。公軍木下がこめ小退出され。嵩ぎく走
 着。兼復のま小流き。孫吉島小編らま。や城中へ礼入
 せらま。牢城かとく危し。と江伸を所へ入道主。從藤奈をれ
 たり計小愕き。そま。系九をて。ま。ま。急げと指揮するを
 不。鞆江相撲ち。言。瀨刑部。越く小ありて。連来。割小狼狽
 こまも又敵公ありと心得く。跡も見をして一里をうり。足と空小
 一落道。一がよくく。見ま。將依る。由へ。紐て。安途。一は。ま。共
 鞆江小投こと。慥を。遠く。石部の城小。過客。り。自軍。兵
 を。集ふ。れ。バ。紐。五。千。と。所。へ。も。百。四。五。十。騎。小。過。ざ。り。り。遠。眺
 勝家。公。士。を。纏。め。長。退。び。を。段。搦。る。敵。と。う。そ。入。ま。バ。二。百。余



豊臣記三巻六十一



鯨江の注伸と
听く兼禎と
惣敗と

豊臣記三巻六十二

級其外小分捕の益あましく得之。再度城中を修復せし。諸士の功勞を大小賞賜し軍力次第目にする。殺得し敵級取齎せ波阜小饒りて信長の實檢小容らしく。大將大小感賞せり。柴田が戦功初度小あらねど。遠遭の別ては類なく。拔群の大功あり。信長自筆の感帖を賜り。賸拵裏(麥)聞を遂修理少進言。任を賜り。柴田が速に越言使者小不破彦之丞相添て長光寺の城へ返され。柴田城外まで出逐へ不破を本丸へ請ふ。信長の感帖を洋見せり。

今度於長光寺依々本六角以大軍一攻圍之處雖為小勢能盡防禦之術數日之牢城能中破

水桶勵士卒斬崩六敵堅固被守之條似韓大元帥背水智勇之程絶感賞為其賞補任修理少進猶不破彦之丞可申儀也

元禄元年六月七日 信長判

柴田修理少進との

勝家こそを讀了。意君恩のあり。形感帖を賜り。も門心と一役して防戦なり。故をじ。愈一回小取載せよ。とて五百余人小祥見させり。此功本これ本下が懸りの城と臨せし。由(一)の蒙小も知らず。過りたる。行中重治令降幕。堀主後属町野破敵。人和せんと。事成らむと。誠ある。浅井父子心一致あり。

了せし評定逐小熟きき得たり。朝倉家より加勢ありきごも
 事調をせしと説氣を撓まし加之六角兼頼長光寺の軍敗
 きて。無江せをら棄取られ信長再び江別へ出馬ありて風
 説をまハ防戦の準備をくんバあらずと諸方の城へ急士をひた
 願そまきくせと守らむ。まら江濃の境なる長久山川安の西
 城へ朝倉の加勢式部正系境と大將とて急使備前守
 山崎長門守福岡石見守喜蓮華右京左衛門河内守依
 之千余騎を率城させ今別口長亭軒孫丹の埜小ハ堀次所
 大將とて樋口之部会湯多羅尾右近を後見せしむ。儲又
 本陣の城中ハ黒田長冬備前守とせとせとせ横山城ハ大切ありと
 て大野木出佐とて田村左衛門大野村肥後守同会庫願依

と紐とて江小隨一の勇士を擇み率く無と對敵せしむ。遠
 响波阜の城中ハ彈正忠信長この治伸を所と等しく。江
 別境願へ進發せし。渠依を所時小攻着せし。とておごて小
 陣徇一た多ひ速小軍備を惣へ曉せし。二月十七日波阜の城
 を出馬あり。然るに本下藤吉舟ハ長濱の城に在り。竹中
 重治と膝突侍せ浅井が構へ。要崖の刈安。長久山の両城
 とうち破らんとせ。然るに。响小半衛重とせや。刈安長久山を
 攻んよりハ長亭軒小對敵守一堀を將佐小勾引ハ。朝倉
 勢ハ攻むとも。形らず恐怖し。まをて。彼堀次舟といハ
 人の遠江守ハ嫡男なまとも。今年とて小八歳なり。次舟ハ後
 見樋口とハ重治舊交の好あり。若擡て試申へ。堀と將佐申

び刈安長久山へ織田の搦撃あり。先糸杉らんとうち起る小
 秀吉殆ど歎息を宣く謀ら玉ひねじしと竹中を送り出
 たり。重治後者せぬと召具し。直地小謙刃の城小趣き榎小
 逢人と言授り。之舟を渡こせと所誠小竹中重治とハ竹馬
 の文ありといども方僅ハ通小呉越と隔たり。私の対面憚り
 ありと返答せり。半信半疑重治城門をく歩倚。今天樋口
 刀稱小逢人と重治とハ私の談話小あらを。次舟殿の津島を
 ぞんと糸杉向なり。つりしはまきの微も憚り玉ふ。及ばし然り
 といども。小出城の事。津島をうらば重治を城へ入
 せり。とて言所り。小ぞ。之舟を渡り。思緯何れしと我家小通
 一対面の辞儀せり。のち重治あら。小云。費るや。今日暮

が糸向して同惠を詞外ならを足下幼主を守護せらるハ堀家
 の繁昌せか。がしぬを飲弁も又滅亡と思召。飲亮滅亡ハ願
 るまじ。堀家ハ繁昌せかり。ひ玉を速く信長小一身一玉へ
 剛や滅びんぞ。浅井小將佐し。借小家命を失ふとも誰が
 臣ぞと感稱を。死別祖父を。能登を親父小ま。しぬを遠に
 いづまも浅井累代の臣家といふ小もあら。を徒一端の時際小。り
 其旗小。小属を。事ハ當時一同の習流あり。ことけ。さくも日本を天
 照大神の御末小。と。百王一姓の神國を。執。王民を。さ。死
 然るに浅井も朝倉も。王威を。惶。を。將軍を。殺。ま。を。自。己。に
 の榮華小。任。せ。く。國恩を。忘。却。を。事。滅小國賊と謂つ
 べし。國賊小將佐し。戦敗。を。戦死。せ。骸の上。に。辱



竹中重治
 明古を
 堀主徒を
 伏さ
 せむ



を受ん小然とて又朽憾くもあらず。乃長と足下との舊好との
 あるをりて信義の情志を通せんため参達つるははるまじ
 とも心底小得まぬらむは深く考へ玉ふべし。長居の通のこめ
 せらじと起んとするを樋口推こめ大息継でまふまふ我謀
 たりく足下の教導なりせば國賊一才の汚名の下小主従も
 るこも戦死なり。永く家名も断絶せん方儀ハ何れも猶縁
 なむとて速小足下を怙こ主命を奉りまぬらせんが如くは
 玉ふまゝにて多羅尾右を呼出し竹中が教解をりてありは
 まゝに語らひければ右近も逆らふ道なきして一身同心なり
 由一竹中と共小うち伴立長濱の城小参向し降参のよし
 と稟を小より本下殊小躍悦なり。本領安途相違はれ茶

堅く志を結米ひし。降参の發を顯さまよき方便を
 承りて返さまされ樋口倭藤双の城小立し。織田家小
 従は浅井家小背くは色を顯しければ利安長久山小激ち
 ぐる朝倉の乞士大小驚死。堀次郎敵となりては此殊毒一
 も持得ること彼ふまじ。他の軍小加増し徒損をとも詮ひ
 きりけを還らん小如くして。急信山崎正魁あり城を捨てて
 落行するこも小固く信長が以別費向の路次開け今こそ出る
 のたよりとけきと精をよき有余人脱し小勇んで赤せさぬは同
 十八日の商次こも小近江の國あり。柳田村西山村を急陣一
 なる。响小本下孫吉郎樋口多羅尾を伴ふ。信長小目見
 たりし本領安堵の所書を戴き。以北の地は漸業内まよを

べしとぞ言状をさす。次小竹中七郎出さきと樋口と將依小属
 とうらる。褒賞ありとて馬籠太刀などの賜あり。且木下小ハ
 別懸小原に河内襲討にじかき。然バ小谷へ推きて一戦をべ
 くと宣ひつると。秀吉言上をいつるやう。小谷ハ浅井の居城
 ありて要崖堅固ありめとあつたを。公士も多く籠守る。河内
 利のことおがつらなり。唯攻易きハ横山あり。まづ遠城を隔て
 后小谷へ向を至るよしと諜めぬれども所害なきとて是れ小
 小谷を攻べしとて。堯是バ六月十九日。城攻の分部を定めらる
 織田上野成信色丹羽五郎左衛門長秀。水野下野中信元佐
 堀次郎と案内者とし。三千余騎の兵士を與へ横山面を懸
 守おれ坂井右と森之左衛門の柴田修理進依く内藏助柴田又左

柴田市橋九郎左衛門佐藤之左衛門。堀本小大膳以下の勇士を率
 從へ小谷の城の正面向なり。虎冲若山と本陣とせり。浅井長政
 乃息と呼願ふ所の便幸なる。疾弛向ふて散散さんと競む
 せ久政堅く制しこれを諜さりし。止事を海をこまらる。其
 既小廿日小ありつるが小谷の街へ亂入し。直家を放火し。狼
 藉せしつと長政父子こそ小款せず。信長大小競之競び一
 輪つけさる心地よやくて。當夜ハ虎冲若山小谷陣あり。翌日
 とも籠を鼻へ拵陣なり。横山を攻んと定められり。浅井
 方小ハ遠藤藤喜右衛門主君父子を大小勅め。信長明日拵
 陣せんことを遂撃ささむ必を勝んと理を説道と辨たさる。久政
 更小景引せされバ。懸断をさして退出し。割りの事小朽城ハ



町野若狭守の
 猛軍信長の
 轉陣を
 逐撃す



△町野の氏
俱名持
足利の
氏

是日町野若狭守を呼出。月朝うらむ織田信長虎衝を
邊をさらん小切不足下自勢を率ひ。斯く計り退撃し玉へ
勝利疑ひあるべしと方術を志めて初めは原兼保氣の
若狭守也(望むところ)雀躍す。秋の深きを待居る
諸信長へ翌廿二日既曉天小序所前山を遷挿さんと準備
する際小夜の曉中を。時刻近づけり小より。信長禎々
浅井家の出合ぬ事を不審小かりひ逐撃をやささん
をらん殿強きんばうと見しと依り中条。築田をりてその
軍役小當させ玉ひ圍せりやせり。若狭守を定む一番の隊
と築田左衛門二番の依り内藏助。二番の中條將監あり。
然し信長限り小隊伍を之力を勸せんと築田を加へ

一千余人獲くこと退陣を茲小町野若狭守へ方僅織田
勢の退せりて自勢五百を外小多賀若宮の孫官を
荷擔らひ。一子余騎を一隊とせし織田の殿強へ馳付て
却くと沖投り。築田左衛門纏りし。覚悟なりと上
ふは百て返して操合火水小ありて戦ひたり。方術ハ遠ごと
若狭守。緒勢を指揮して綱と退築田もことと退せり
これバ二番小備へ依り内藏助成政展轉て殿を築町
野陣中を是と見たり。千田新次郎。阿国彦九郎。細部
久を衛八田助七郎。田色久六。中鴻兵七。浅井守助。二百余
人槍先をうへり搦奪して依り得たりと鑓前間へ待たれ
織田に旗本より。津田金右衛門生駒八右衛門。平野喜右衛門

高木友吉部野々木金水土肥助次郎山田半蔵清盛等所
 倭佐く小力と勤せんと再び返して正魁小進む町野若狭者
 こもて見ん。快陣形と變化あり。七百餘騎と一面小備へさせ
 二百余人と憑武者として。佐くが隊伍の横隊より出と喚と
 冲蕨り。當向と敵と起る。佐く内蔵助が先隊伍佐く小
 ありて退起られ。既小免くつんへつて成政とつらつらと斬る
 ら備へしり。正魁小進めバ老黨佐く孫右衛門小村市兵
 若野小多清倭を小劣らバ面目あらじと連環の像く馬若小
 並び勝驕る。淺井勢と微塵小せんと突發と成政去より
 勇猛と進バ掘出險を細部久多清剛子あやまつて正魁と
 獨り。轉小もこを逆例ををきと見よう王肥助次郎正馬

小ありて突出。阿田彦九郎と擧伏く首當揚つる奉動ハ
 目覺し。こを見へつらき。無ごも町野若狭守種威凛烈
 烈とまば此も怯まず斬る。匝周命賜すを攻つらば佐くが
 隊伍崩蕩る。こ番の大將中條將監去まをりつらより
 去備さとし。旁ま玉ふらん。乃子領継まふまを。こ成政小
 交代て致向。淺井方少の精交る。後援の空あり。こいこも
 土地の案内よく知ま。遠所の笠原。町下の樹陰。出沒を
 る。澤澤雲の像く。こ勢ハ只管小信長が本陣へ馳蕩り。こ
 二の一戦小及ん。町野正魁小掘出ま。何も生ての返し
 りの。一千余人怒潮の如く。種威活く。標起ら。中條も稍免く
 見へ。段々つらつら。不と將監が一族中条又多番。只單路少く。諸



虎御前山の
殿えん駢ぎ子
中ちゆう条じゆう又また兵衛
浅あさ井の五ご將しやうと
血ち戦せんと



止り。喚て蒐る町野ヶ嶽と一個もあへ進ませと。憤怒を發して戦ふ小ど。裂石拔山の極威をささぐ。淺井の兵士多しといへども。又々衛一個小斬起られ。隊伍をならしめり。自ら軍の耻を見せんと。淺井半助中鴻興七八田助七郎田邊久六千田新次郎の五騎一隊小あまし。いせと。又々淺井を正申小單ん。攻めば申條が矛も鉄石ありぬ。深く淺く數箇不小斬を。負危や殿とんとささる。不へ柴田修理進取返す。淺井が兵も覺束と。とやおがしゆ。兵の兵士五百人を。柴田申條よ加勢。至ふ。然バ敵士を撃強直。その際小退を。指揮し。心得りと。五百の兵士。五百余挺の筒願そ。人

正黒小擊起。さる。由へ町野ヶ隊伍の兵士ども。二挺を撃り。解くらむ。又のくさる。烟は復た。東西も更小。人々。軍も。最己これ。有り。退收。として。若使。兵士を纏めて。退陣。し。柴田中条も。衆挑。を。捷威。つ。て。退。て。行。り。町野ヶ隊。小。う。つ。敵。の。兵。の。二。百。餘。挺。あり。る。が。織田。方。小。て。殿。提。し。も。二。百。餘。挺。と。紀。さ。さ。る。り。

淺井長政與諸士彈決戰。屬遠藤孫三郎。擊。一。声。よく。四方。小。達。を。と。信。長。既。小。虎。河。若。を。退。く。不。及。ん。で。諸。隊。へ。指揮。を。傳。ふ。傳。至。る。と。さ。る。不。及。れ。が。由。へ。小。隊。伍。の。次。子。を。系。さ。さ。して。渾。く。と。推。通。り。能。が。鼻。へ。衝。陣。を。移。さ。る。能。ども。遠。道。依。り。申。條。築。田。の。こ。將。よく。戦。ひ。殿。馳。り。し。る。故。

せしこま小依く織田殿も厚く武功を賞與せられ
 當夜ハ諸將を休ませ玉ひ曉までバオ二日の登天と可
 余騎の大軍少く横山の城を攻らまこと。丹も遠城也
 淺井の勇將之田村左衛門守人國定野村肥後守定元同族
 庫頭直次大野本左衛門秀俊依一千餘人風も漏さなく
 對敵守。賸矢丸も多かりなれば進兵の大軍を事もせむ。
 嚴しく防戦する小よつて有係小極も織田勢も極暑の凄
 まがにしとのひ。姑く虎口を退去て人馬の息を次せたり。勢も
 京都より河加勢あり。既小龍ヶ巢へ所着る。信長くは
 かく敵をまき久小邊應へてまつ。こま小依く織田勢ハ死
 をひまをく盛申し。然バ遠城と二日ハ内小攻臨さんと指揮

せしこま小依く織田殿も厚く武功を賞與せられ
 當夜ハ諸將を休ませ玉ひ曉までバオ二日の登天と可
 余騎の大軍少く横山の城を攻らまこと。丹も遠城也
 淺井の勇將之田村左衛門守人國定野村肥後守定元同族
 庫頭直次大野本左衛門秀俊依一千餘人風も漏さなく
 對敵守。賸矢丸も多かりなれば進兵の大軍を事もせむ。
 嚴しく防戦する小よつて有係小極も織田勢も極暑の凄
 まがにしとのひ。姑く虎口を退去て人馬の息を次せたり。勢も
 京都より河加勢あり。既小龍ヶ巢へ所着る。信長くは
 かく敵をまき久小邊應へてまつ。こま小依く織田勢ハ死
 をひまをく盛申し。然バ遠城と二日ハ内小攻臨さんと指揮

の軍小幡收戦死な。人小の志とじと獨覺終を決まこと
 とも朝倉勢の来らざらば軍もあらぬ事とて只義軍を恨
 んて居ふなり。這小幡倉義系の先達より後遺淺井長政
 使者をいつて加勢の詞を言投れども當て構く氣も
 なく。出馬の準備もなさりなれば魚住備前守心を焦燥
 遣り出て言まやう。數番淺井家の使者を得たり。河
 出馬に於て何事ぞや。素この軍の淺井長政當家義を
 こそ信長小敵討せしめなれば。總令使算を得たり。も
 出陣さくして。偶々ぬ義理あり。淺井家父子のあもえくも
 最能くくは。バ。と。う。う。河出馬に於て。河勢ありとも遣り
 させ。然るに烈謙も。一。又も淺井家より。馳馬來りて今の

え中防戦危くは。備前出陣延引らる。自家一軍の勢を
 りして有るの戦つたり。存亡のやとを極めんを。怨を言
 んて謂哉。れば義軍命儀の黙止し道なき。然るに軍備の調
 ふまを戦合の勢を遣りさんと一族あり。朝倉孫之介系
 儀より大將を。一万余人を當添。河内境へ遣りし。遣
 勢漸く廿六日。小谷の城小番軍に。れば淺井の君居り。秋比
 僅小谷を。朝倉勢の一万余騎。大寄山小幡際も有る
 せと陣營と構へ。義系の出馬を相候。悠々程小幡田旁の
 朝倉勢の後援せぬら。横山城を攻隔さんと。單騎急小幡起
 一。田村野村大野本。侮火水小ありて拒抗とい。む。方儀の城
 名悉く。牙。河。泥の像く。小。疲。果。勿々。牢。城。あり。と。頻。小。谷

臨さるるが悔も詮なく。教任する彼城を別方小援の方
 術やあると言敷るも、响遠孫赤右衛門將をこりて列陣し
 居るが、方僅ちを奉向も聲言せむ。只管主計非運と
 一。乍時も早く戦死せんと心を決せし機合なきが、長段
 の詞を可なりとして、いふも君が謀慮のや。軍の方便なるべ
 し。便と目を送るうらふ。横山城の谷士軍。自らの後援
 ありを恨む。降参を命じけりぬもあつた。都て軍ら大將
 の心小信とて、重傳つ。君もや既小戦ふとおおしめし起
 ありゆけを。戦ふてこそ勝利なき。然りとて、いふも不意と
 段。おかしや。いふも、官しるるは、勇を極めて列陣をこりて
 之小うち破り。唯信長を段捉ふことを。行要となり玉ふ

一。尚陣將の响小及んで、敵亦散せむことを、途へ壘地小
 戦ひをためぬ。國家のこめ小命を抱ち、忠義を達せんと
 敵とて、己の敵に大軍も蟻蟻の像し。いづれも遠道の
 合戦ハ敵の旗をへ絡入り。大將信長を段捉り、然るくハ
 惣軍を逐崩さす。彼此うらむとあささん。折きて歸陣せ
 らるは、し。もや出陣の御準備とて、初め小長段、先承と笑
 ひよくこそ重し。初めこそ先承之命、系健小も合戦兼保あり
 らんハ、兩隊の軍勢、左右小分、野村之田村より、推散さん
 敵ハ、尾濃勢、この勢、別まが中の孫勇あり。より小恃むと
 ありゆき。系健、听く同く、くうら、笑小命せおや、及ぶに、系
 健先陣、蒙るく、敵を一戦小退却し。初倉武士の綱をよめ



豊臣記 三曲



豊臣記 三曲

十一

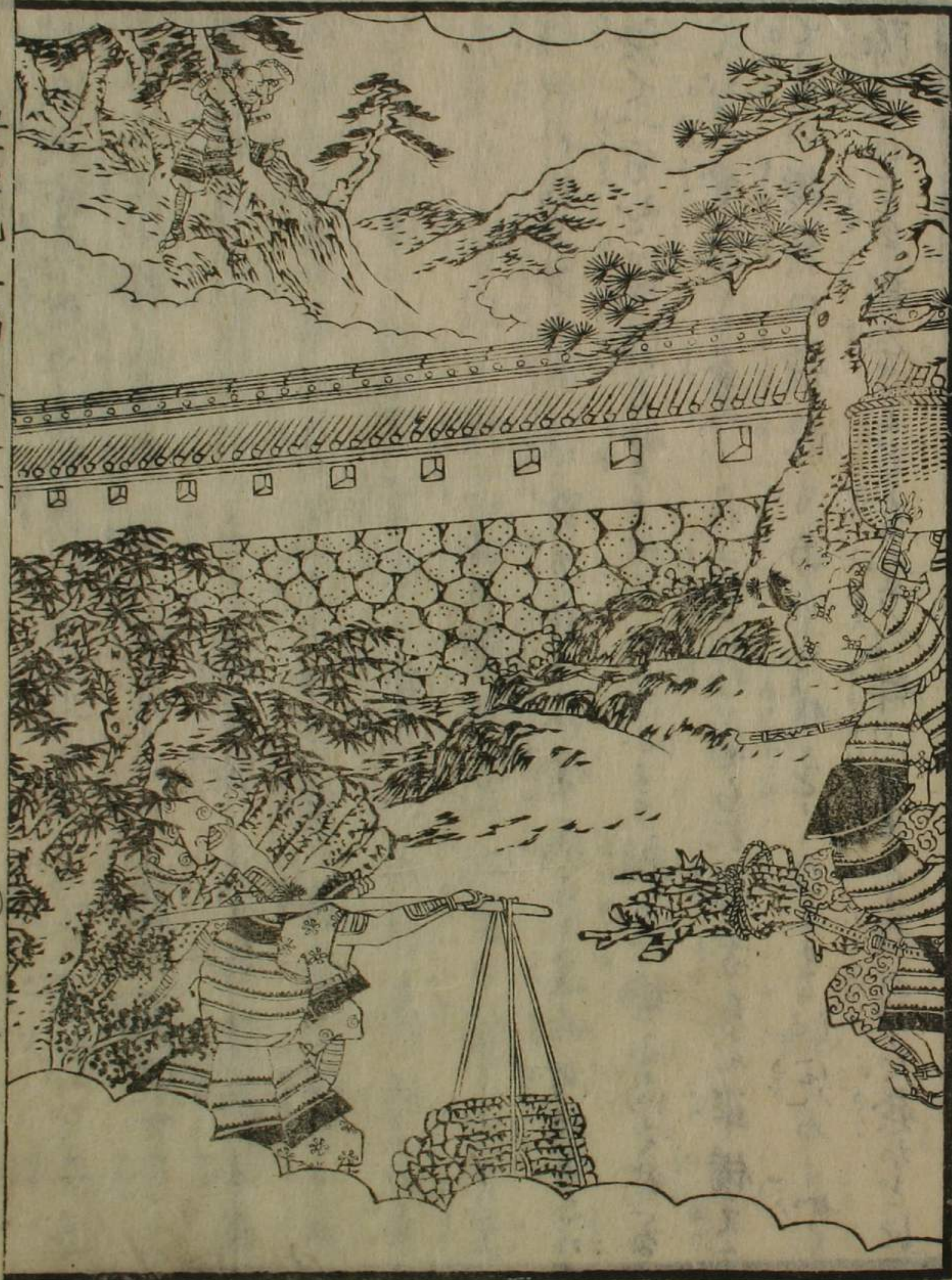
さん登りも起票をてして廿七日の終夜西家の公士皆
 借小出陣の準備頗あり。然るに遠藤孫右衛門の預て覺
 悟の脈を決し。遠道は是非とも戦死して忠義を決石
 と共小せんと斬金の友を呼集ひ酒酌令て謂けるや。明朝
 自軍陣を撤さば信長く好らむ軍を奪めん。こま俺們が
 望む所あり。吾心を一致して。単小敵陣を突破し。信長を
 殺んと志意べし。我小於るの明日こそ。織田の本陣へ絡捉
 是非小信長を殺段人。倘做格とならば戦死するの之。継令
 首尾よく信長を殺果するとのふとのこも。自分の之。事小降ら
 ん。緯千小一もあふくを定む。敵陣小籠を殲さん。然るに今
 宵の桑倉こそ。現世の離別あるべき。然るに信長を殺果

して小至りて。最期の本望此上なく。是下達も心を懣まし。
 忠憤義勇を抽んぞ。死後の英名を考へし。うあらむ胡盧
 どうけむふおと種々門禪し。捨使うも笑ふ。教敵家敵
 益を唯逆さむくも旋らし。禱世をなすも。法士へ只願
 遠藤が勇名を列にし。言詞あらんと。何の意も厲として。各
 驍んく應し。右左小曉天近られたれば。ちやうも殺んと
 具足し。りる

磯野員正敗織田五段隊属秀吉志願
 英雄一遭激する。响怒氣天小徹ると。遠藤孫右衛門死を決
 して。逆小信長の本陣を襲ふ。忠勇全に豪傑あり。然る
 小籠が鼻なる本陣中。信長もくも。馳達し。ちやうも。斬金加勢

の魁隊部。浅井の陣小加えりて。大守山の遠近小陣列せし
と漸覺あり。ゆりく火急小横山城を攻陥さんごり。さる
然ども城中今もや朝倉家より加勢こして。隣近く陣居
ありと視る。自軍大小色を調。踏こらへてぞ防戦を懸る。小
七日は夜木下孫吉身唯一個。陣守岩小攀登。敵陣の横
横を窺視く。信長の本陣小見あり。火急小軍を音ありと
云出せし。大將小も。何事小やと愕きさぐら。藤吉部小對面
せらる。秀吉膝膝て重をさぐら。朝倉の助勢。敵小加えり。
浅井家大小力を得て。さる定めて横山の後援こして。合戦
と編む。とあり。小今日その沙汰あり。義系の出馬を待
り。おらん然ども軍小味き。義系急少の出陣は。ほじ。こま

小より浅井長政翌日の軍を費めん。とま準備頗
小作。小居頼く暮天のころより。敵の曉嘆を伺ふ。こら
甲夜に當りて。事もつ。鎮却て。つんへりし。が。亥の刻の
頼比より。倉卒小多影を焚。敵せり。是を糧の炊。意。小
明日のあらを。朝敵小軍せん企む。べ。先遠方より。勢。こ
出。半途小於く戦ひ。そ。め。敵の計策相違して。自軍
の勝利。疑ひ。な。らん。登。諸將へ。漸指揮ありて。漸分探
あり。然る。べ。は。と。云。出。ひ。矢。あ。ら。さ。る。小。信長。長。疑。く。た。り
お。く。時。小。諸將。を。召。集。め。翌。日。の。分。隊。を。定。め。ら。る。ま。ら
一番。の。堀。井。右。近。政。尚。父。子。二。千。餘。人。小。て。打。發。さ。せ。二。番。の。池
田。勝。三。郎。是。も。同。く。二。千。餘。騎。こ。番。峰。屋。倉。庫。願。回。番。と



敵陣の
焼光の
添を
窺く
秀吉
翌日軍
あつと
を識



依久間右衛門尉五番の森之左衛門の如く二千余騎を率具
 きて、次小信長の旗本の前、後右七段小隊に之をよ
 第一中央の魁隊に、木下藤吉郎二千餘騎を、安藤
 伊賀守右少将、田又左衛門大中心、大將織田弾正忠平
 信安、備前守、後陣の菅谷九右衛門、川尻典重、福富平
 左衛門、備前守、横山城の壁守、少将、以平の儘、河合兼
 信、包丹羽五郎左衛門、水野下野守、小余属ら、遠响、河合兼
 強て一方を退治と望ませ玉ひたるより、朝倉勢小向を
 ちば大幸ありと告げ、大少敵をせられ、名方ら、準備
 て夏の短衣の待際もあらむ、曉をくわするに、定め、如
 隊に之を都合、之方有、余、人、昨、川、當、推、其、を、然、か、ど、に

淺井方少将、刻をり、小軍、準備、當時、刻も、至り、し、る
 を、出陣、を、と、曉、は、六月、廿八日、東、雲、晴、く、あ、る、時、頃
 淺井、長政、八、千、余、人、越、前、の、加、勢、朝、倉、景、健、一、方、余、騎、を
 率、從、へ、兩、勢、二、方、小、達、部、野、村、之、田、村、と、推、登、を、淺、井
 先、陣、の、大、將、の、佐、和、山、の、城、主、儀、野、丹、波、也、員、正、あり、原
 兼、大、力、を、双、小、して、兼、也、も、敵、を、緋、能、と、て、殊、小、の、軍、小、別
 之、を、細、作、を、出、して、伺、い、を、り、小、織、田、方、既、小、出、張、り、て、ま、面、五、段
 小、隊、に、之、を、續、き、次、小、信、長、の、本、陣、之、を、四、方、七、面、小、陣、を、構
 へ、大、將、を、守、護、し、ま、さ、る、と、告、り、丹、波、守、り、ち、點、頭、實、小
 然、も、あ、る、べ、し、事、小、好、ん、と、望、も、動、を、進、む、所、小、織、田、勢、集、り、と
 近、き、侍、魁、隊、部、頭、の、隊、伍、より、名、流、敬、年、蒐、喊、を、つ、り、て、也

豊臣軍の
大平八
山源八
年八月

合戦を初り。禰之助は浅井の面。磯野が先陣を接
せん。高宮之河守。大淵大和守。赤田信忠守。山崎源太守。門
下。千余騎。馳加へる。後陣ハ大将備前守。豊政。千余
騎。推出。响小磯野丹波守。馬が鞍。壺小突。立揚。敵
の隊伍を見渡せ。先陣の陣列。五段小續けり。自軍の諸士
を觀く。ゆゑこの敵を敗る。小ハ龍車。の像。一條小。擲。提。る。そ利
あり。これ。我。正。魁。小。突。出。し。勇。を。極。めて。擲。崩。さん。小。足。下。俯。攻。
小。隨。つ。て。粉。骨。碎。身。し。ま。ふ。一。只。管。正。面。を。斬。破。り。信。長。の。旗。
下。まで。た。た。右。さ。く。推。極。務。員。と。一。拳。小。決。ま。ま。ど。と。ひ。も。磯。野。が。
磯。野。員。正。一。丈。八。尺。の。長。鐵。推。把。と。う。う。正。魁。小。頭。向。ひ。た。右。小
島。流。と。隊。を。指。揮。せ。る。直。地。小。放。菟。上。と。勢。威。極。く。激

田の先陣。坂井右近。小擲。く。懸。る。坂井。は。自。軍。己。道。小。方。ら
を。鎗。を。打。り。て。擲。り。合。も。や。會。着。ん。と。ま。る。右。小。丹。波。守。太
右。と。觀。所。自。軍。の。兵。士。を。擲。り。ハ。た。右。邊。响。と。數。百。の。鳥
銃。筒。先。そ。ら。つ。て。擊。菟。了。小。坂。井。が。兵。士。駭。慌。俵。倍。小。方。て
進。得。む。員。正。魁。と。視。る。より。も。ま。右。勇。戦。ハ。唯。今。あ。る。と。續
け。と。大。喝。一。声。お。し。鎗。鎧。を。ま。る。と。駈。入。り。坂。井。が。兵。を。散。ら
小。擲。ひ。ら。擲。り。擲。起。り。ま。る。遠。勢。ひ。小。當。り。と。一。拳。小。決。と
頼。起。坂。井。政。尚。斷。と。な。り。兵。士。を。勵。ま。し。戦。う。ん。と。ま。れ。と
物。方。の。多。銃。小。隊。伍。紊。ま。り。動。搖。こ。る。と。あ。る。小。磯。野。が
烈。しく。擲。起。り。ま。る。臨。場。へ。る。軍。一。個。も。ま。く。右。邊。方。往。小。敗。走
を。坂。井。父。子。極。威。を。擲。ひ。戦。死。を。こ。も。通。し。せ。し。と。烈。戦

豊臣紀三編卷之八

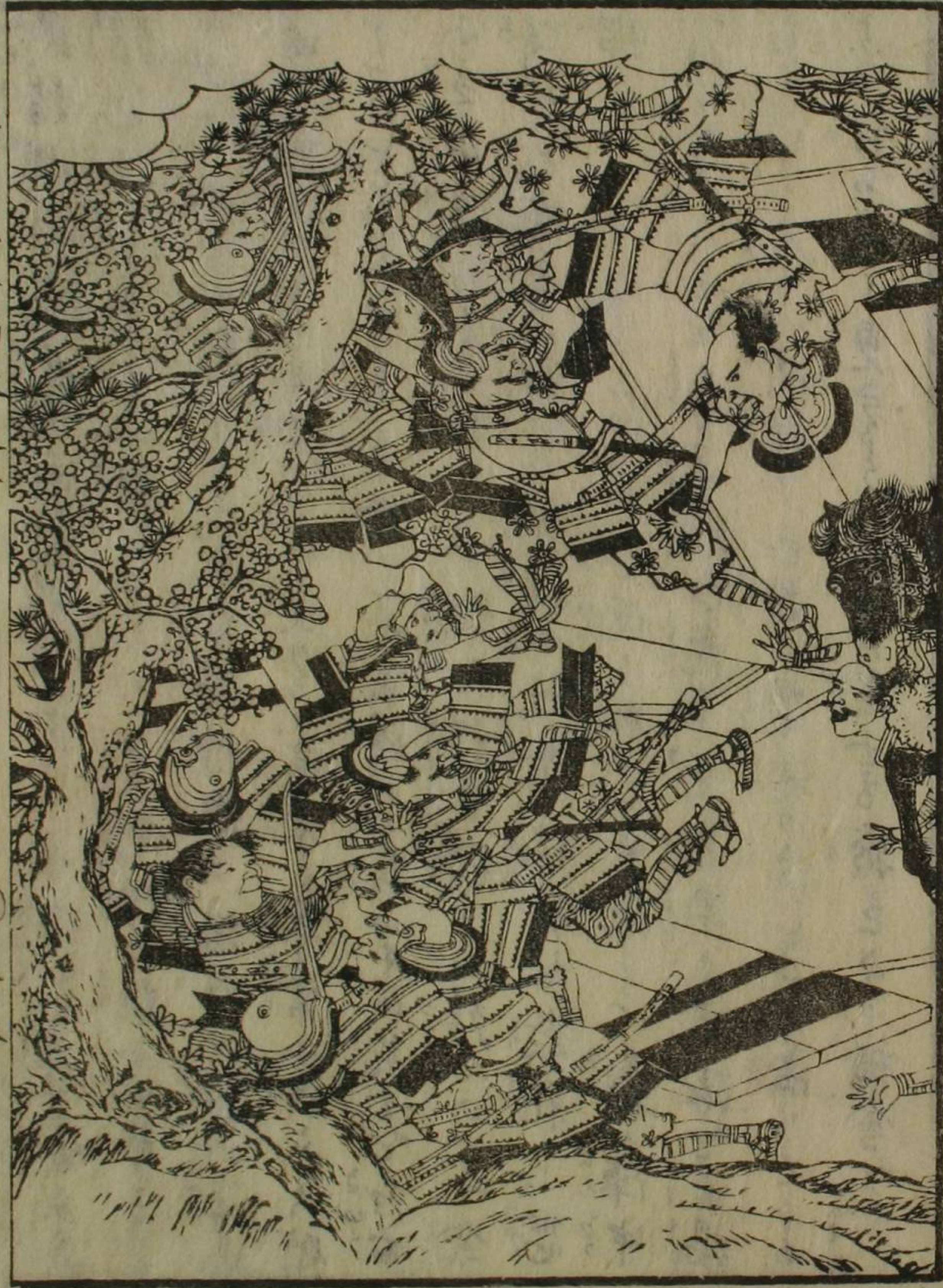
士五

一なるまゝ内小二隊の軍勢出来まはる。妨ふもあらんと
 残念みぐる方右へ退く。二番の池田勝之助信輝坂井小
 將更く戦はんことを。磯野が種蔵さうんあること。筑後國城を
 一掃小。搦顔さんを所休小。碎逆よとじも繕らる。池田が陣
 一面も揮らる。葛地小。強投。憤怒虎の威を振ひ。中
 進和邊を音こて。搦ねどに斬ふどに池田が公士依氣
 と棄る。後へ清瀆虚を沈視。得るや應と丹波も遠
 勢敵小。旗本も。突投んこと。前後方右小。當る
 とさひ。飛鳥の像く弛。旋。搦伏く。揮き。あまに
 従ふ勇士輩生死と知る。弛起。一。池田の軍。これ
 為小。瞬たる際もあらばこそ。遂小。同。突顔。まて。乳。

傷之部崩起る。自公の隊。但達整をとと。偶ふ。兵士と損
 せぬ。そのうち小。諸士と左右へ退去せ。身も共小。退。諸
 之番。蜂屋。庫頭頼隆。二十余騎。推。池田小。代。人
 と。す。取。磯野。種。威。と。あ。一。一。換。ひ。て。単。騎
 急小。蜂。屋。が。隊。但。突。て。投。烈。火。の。像。く。小。攻。着。れ。公。庫
 頭。が。公。士。輩。槍。合。と。る。ま。も。ま。一。樓。小。薨。崩。さ。る。右。側
 左。倒。小。混。乱。せ。り。四。番。の。依。久。同。右。道。尉。蜂。屋。小。將。更。と。お。し
 出。と。磯。野。が。勢。の。先。地。く。攻。小。之。番。隊。を。退。致。く。蜂。屋。が
 公。軍。慌。忙。さ。る。右。左。一。同。く。小。途。を。失。ひ。四。番。隊。但。へ。蜂。屋。と。
 公。是。壁。便。と。丹。波。中。願。小。退。極。る。由。小。依。久。同。が。軍。公。これ
 小。障。ら。ま。是。小。纏。う。く。自。由。を。得。る。磯。野。が。公。士。の。將。小。

息をも治で棲起りて。依久同信盛断をほし心ハ孫權小
 懐くといども同士段あらん事を臆も指なく戦をて。左右ハ親
 と還せり。五番の隊伍ハ森之たもつ可成先隊四隊の敗を
 ころせ或ハ競り或ハ驚た。浅井ハ先陣いりある者少ハ新進
 種勇ありるぞ不審さよと云きみづら。二千余人を真鱗小
 そちハ敵ハ斬すを戦ふさよと。将率も小瘡をさるを退ひ
 返さるあさるをと自勢を烈し推散を然る小磯丹
 丹波守ハあまもを口浪の敵を破りいりく驍んを逆襲
 たり。進んで目面と腕と視る小遠一隊を斬破るバ直小佐長
 の旗ありと雀躍りて自軍を顧所這一隊を破る。あま
 直地小磯田の旗本ありて。而く怯すを勢力を竭く。破崩

さきよと烈しく指揮み。島地小掘授り。丹波も余りに
 強く掃きて。槍は鈍を編折り。大古刀に記脱揮し
 赤林ハ隊伍小斬入た。平小難起。右子小破。仗走向敵の
 おりちやと。四角八面小強起。まは。こま小強ひて。宮赤田
 大洲山崎ハ將率も小惣勢。五子有余人。恰も波濤の起る
 が像く。真味んて。突散なし。大洞を散らして戦ふ。小を
 たる。小勢。あて。慥も。こま。か。り。こも。我遠隊伍を敗られ。な。バ
 藤木の陣。陣危ふ。う。ん。小。臨。堪。へ。ん。バ。あ。ま。へ。う。と。と。諸。卒
 小烈しく指揮を傳へ。遠口を。告。途。と。防。戦。し。る。者。信。長。の。心
 休を。済。覺。あり。と。可。成。軍。危。ふ。渠。備。敗。軍。を。こ。ま。に。ん。バ
 敵。直。地。小。磯。か。推。逼。来。らん。早。く。之。た。ま。を。播。く。下。と



磯野の勇烈
 織田勢の
 五段隊列
 と破る



河指揮あるを木下秀吉君少のたにしも河心を勞させ玉ふ
續たれ秀吉こそ小勅へいさばいなる副将の敵中もあもをど
河旗本を孔入さるべき方儀推進の磯野が勢へ小居退
返一軍をよと自若として立ちつる遠者と尋常小戦ふに破
里ごじとありひりまは自勢三千余騎のうち二千の兵士を左右
小之を銃あまし構へさせ謀を謀合備まて残りの一千余
騎をバ秀吉まづり率從へ故意隊伍を散れ。忠
怖みしる怖ふせせけ。正面小勅へさせ。然して森が陣中
へ使者の兵士を遣らせ戦ひ危く見へ。早く河隊を遠揚
らま軍の本下へ河標へあまると京送るしる可成もえしめ
より。保ちごとく見へる人方儀の兵士も疲まらる機合を幸ひ

本下より遠揚のいさよと言越れば磯小もとありひ操遣小。
左右へ親とありせたり磯野原兼信長の旗小撃
投了簡ひまは遠去敵小目せうけを真一文字小請ふ當
く。早迎くと進侍らり

繪本豊后勳功記之編卷之八終

